

執筆担当：斎藤登美夫

26/09/16

さらに、忘れてはいけないのは、前段で取り上げた「サイクル拡大」において底入れのシグナルであった「2

しかしながら、それほど遠くないタイミングで決着がつくと考えられるうえ、もっとも早ければそれは今週予定されている日米金融政策の発表である可能性もありそうだ。次なる動意に向けてしっかりと情勢を見極めたうえ、上下どちらに動いてもよいよう、虎視眈々と準備を怠らないようにしておきたい。(了)

[illegible]